

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年7月9日 (月)

NO. 873号 本号3頁

悪法通す延長国会に憤りの声上げる！

一総がかり行動実行委員会 木曜日国会行動一

総がかり行動実行委員会は5日、毎週木曜日開催して来た国会前行動を行いました。雨の中参加した500人は、悪法の強行採決を繰り返す安倍政権に憤り、「安倍政権は今すぐ退陣!」「森友・加計疑惑徹底究明!」とコールしました。

主催者あいさつした共同代表の福山真劫氏は「延長国会でも安倍政権の暴走は止まっていない。戦後最悪の内閣だ。野党と共闘し国会を包囲し続けよう」と訴えました。

日本共産党の山添拓参院議員、立憲民主党の生方幸夫衆院議員、社民党の福島瑞穂参院議員があいさつしました。山添氏は、安倍政権の暴走に対して市民と野党の共闘が広がっていると強調し、「力を合わせて安倍政権を退陣に追い込み、新しい政治をご一緒につくりましょう」と訴えました。



弁護士や市民団体が連帯あいさつ。安保法制違憲訴訟の会の原告は、名古屋でノーベル物理学受賞者の益川敏英氏らが原告に名を連ねて提訴準備していると報告しました。

終盤国会に向けて、共同代表の小田川義和氏が行動提起。安倍政権を退陣に追い込むため、「国会周辺での行動を継続し、3000万人署名の達成に向けた取り組みをさらに広げて行きましょう」と呼びかけました。

共謀罪廃止等に向け、国会前集会と院内集会開催

6日昼、「共謀罪NO! 実行委員会」と『秘密保護法』廃止へ! 実行委員会」主催で、共謀罪法廃止と森友・加計疑惑徹底追及を求める抗議行動が国会前で行われました。

雨の中、日本共産党の藤野保史衆院議員、立憲民主党の逢坂誠二衆院議員、社民党の福島瑞穂参院議員があいさつをしました。

藤野議員は、「共謀罪は国民の気持ちを委縮させ、活動を制限し、国民の行動を監視するものだ。昨年12月に野党で提出した共謀罪法廃止法案を成立させ、必ず廃止させよう」と、呼びかけました。



参加した団体や個人から、共謀罪廃止に向けたとりくみとともに、総がかり行動委員会、共通番号いらぬネット、元号の廃止やリニア問題などを取り組んでいる様々な団体・個人から発言がありました。

午後には、「森友・加計疑惑から公文書管理を考える」院内集会在衆院第二議員会館内で開かれました。日本共産党の宮本岳志衆院議員、立憲民主党の小川敏夫参院議員があいさつをしました。小川議員は「国会ではカジノ法案をやっている、ほかは全部動いていない。財務省と国交省の委員会は開かれていないのです」と、森友・加計問題の解明を求め、奮闘し合うよう呼びかけました。

集会では醍醐聡東京大学名誉教授が「森友疑惑: 交渉記録から浮かび上がった8億円値引きの闇」とのテーマで、森友・加計問題を詳細に語り「幕引きを許さない」と話しました。また、右崎正博

独協大学名誉教授が「森友・加計学園問題と公文書管理の課題」とのテーマで、公文書管理の現在の問題点と今後の課題について報告しました。

安倍首相、改めて憲法9条に意欲を示す！

自民党総裁での支持固めで地方を回っている安倍首相は、4日、自民党埼玉県連がさいたま市で開催した党員向けのタウンミーティングに出席し、憲法9条に自衛隊を明記する憲法改正の実現に改めて意欲を示しました。安倍首相は「自衛隊の存在を位置付けることから始め、改正を進めなければならない」と強調しました。

このタウンミーティングには、地方議員や党支部監部ら約350人が参加しました。安倍首相は立候補表明について「まだ国会中なので、しっかり国会に集中したい」と述べ、閉会後の表明を示唆しています。会場から、9条に関して抜本改正を求められると、「ハードルが高いので、慎重な案で望まなければならない」と述べました。

改憲論議「立憲民主党と共産党がいるかぎり無理だ」と首相

その安倍首相が自民党の森山裕国対委員長らとの3日夜の会食で、衆参両院の憲法審査会での憲法改正論議に関して「立憲民主党と共産党がいるかぎり無理だ」と発言したと報道されています。4日、立憲民主党の辻元清美国対委員長は、その発言について自民党の森山氏に抗議しました。森山氏は「首相はそんなことは言っていない」と述べました。

抗議に先立つ野党6党派の国対委員長会談でも首相の発言が取り上げられました。会談後、辻元氏は5日に衆院憲法審査会が開かれる見通しにふれ、「政党を名指しして、どういうことか。たるみきっている」と記者団に指摘しました。日本共産党の穀田恵二国対委員長も記者団の質問に「首相が言ってはならないことだ。許されない」と批判しました。

袴田事件 不当決定に抗議する集会開催

袴田事件の不当決定に抗議する集会が6月15日、地元静岡市内で開催され、支援者134人が参加しました。主催は、国民救援会など8つの支援団体でつくる「袴田巖さんの再審無罪を求める実行委員会」。

司会者からは、再審開始決定の報告集会を予定していたが、不当決定の報告集会になったことへの抗議と憤りのあいさつがされ、弁護団の西澤美和子弁護士が決定について報告しました。

支援者のあいさつでは、袴田巖死刑囚救援議員連盟顧問の牧野聖修元衆院議員が「決定を聞き愕然とした。無実を信じている」と抗議の意を表しました。支援団体からの決意表明では、国民救援会の鈴木猛事務局長は「隠しの社説を見ても高裁決定に批判的です。事実を知らせ、裁判官の論理ではなく、市民の常識で最高裁に迫り再審を勝ち取りましょう」と述べました。

最後に袴田秀子さんがあいさつに立ち、「事件のあとは息を殺していました。いま堂々としていられるのはご支援のおかげです。落ち込んでられません。最高裁に向かって突き進むのみです。一緒に頑張ってください」と訴え、大きな拍手が起きました。

集会は、不当決定への抗議と、最高裁での再審開始をめざす決意を固め合う集会となりました。

＜救援新聞 7月5日号より＞

6月11日 袴田さん再審取り消し=地裁の「無罪」覆す

1966年、静岡県で一家4人が殺害された「袴田事件」の第2次再審請求即時抗告審で、東京高裁は11日、死刑が確定した袴田巖さん(82)の再審開始を認めた静岡地裁決定を取り消し、袴田さん側の再審請求を棄却しました。死刑と拘置の執行停止は取り消されませんでした。

地裁決定の根拠になったDNA型鑑定信用性が最大の焦点でした。第2次請求審で鑑定を実施した本田克也・筑波大教授は、確定判決が犯人の着衣とした半袖シャツから血痕のDNAを抽出するため、特殊な試薬を使用しました。大島裁判長は、本田鑑定について「試薬にはDNA分解酵素があり重大な疑問が存在する。一般的に確立した科学的手法とは認められない」と指摘。「学会の指針に沿わず、第三者の型を検出した可能性も排除しており不適當だ」と結論付けました。

地裁の「無罪」判断は4年余りで覆り、弁護団は最高裁に特別抗告。再審の可否を決める審理は、さらに続く見通しとなりました。

各地のとくくみ

石川 憲法会議らが3の日行動

石川憲法会議と憲法を守りいかす共同センターは3日、金沢市の名鉄エルザ前で「アベ政治を許さない」3の日行動に7人でとくくみ、「安倍9条改憲NO!」のチラシを配布し、3000万人署名を訴えました。

「憲法9条をまもろう」「ストップ!戦争する国づくり」と書いたのぼりを立て、参加者が交代でマイクを持ちました。共同センターの長曾輝夫事務局長は、「憲法に自衛隊を明記し、海外で武力を使う自衛隊に変えようとしている。安倍9条改憲は許さない。3000万人署名で改憲にストップをかけよう」と呼びかけました。

憲法会議の尾西洋子事務局次長は「安倍政権は日本を『戦争できる国』にしようとしている。今こそ『憲法守れ』の声をあげる時ではないでしょうか」「市民と野党の共闘で安倍政治を終わらせよう」と訴えました。

通行人が足を止めて署名に応じていました。白山市の男性は「憲法変えてはだめ」と語り、署名しました。

宮城 日本国憲法の源流「五日市憲法草案」の学習講演会

宮城県旧志波姫町(しわひめ)(現栗原市)出身の千葉卓三郎が起章した、日本国憲法の源流「五日市憲法草案」の学習講演会が1日、仙台市で開かれ、74人の市民が参加しました。

主催した治安維持法同盟県本部の杉山茂雄副会長は、明治時代に民衆の手で生まれた「五日市憲法草案」を学び、安倍改憲阻止の運動の力にしていきたいとあいさつしました。



「五日市憲法草案の会」事務局長の鈴木富雄氏が講演。仙台藩士の卓三郎が、家の事情で戊辰戦争を経て、漢学から医学、仏教、キリスト教など様々な学びを経て、五日市(現東京都あきるの市)にたどり着き、学芸講演会で多くの若者との議論のなかで五日市憲法草案を起章した経過を解説しました。

千葉卓三郎の碑文に、同憲法草案から6カ条が抜粋されているのが、基本的人権、平等権、教育の自由、地方自治、主権在民、政治犯の死刑廃止だと紹介。明治時代から日本国憲法につながる思想が、日本人の民衆に流れていたことを強調しました。

栗原市志波姫町の鈴木道夫氏が、顕彰碑建立や記念誌発行、新成人への小冊子『おらほの憲法』配布、公園整備などの旧志波姫町の取り組みを紹介しました。

民青・長野 「いまさら聞けない 憲法と、日本の平和について」集会

民主青年同盟長野県委員会は1日、松本市で「いまさら聞けない 憲法と、日本の平和について」と題した集会を開きました。

集会は、6月3日に東京都内で開かれた「若者憲法集会」を受けて、改憲問題を深く学ぼうと企画したものです。「若者憲法集会」に参加した2人の女性が報告しました。

憲法学者の稲正樹氏が、日本国憲法の成り立ちや、安倍政権が狙う9条改憲の危険性について講演。安倍首相が提唱する、9条に自衛隊を書きこむ「加憲」論は「戦争法で武力行使を大幅解禁した自衛隊を合憲とし、戦力の不保持を定めた9条2項を空文化するもの」と批判しました。

講演後、参加者は三つの班に分散して討論。「憲法とは国家権力を暴走させないためのものと分かった」「日々仕事の忙しい若者に憲法の値打ちを広げたい」などと交流しました。

集会には長野県知事選をたたかう「明るい県政をつくる県民の会」の金井忠一候補が駆けつけ、あいさつ。「憲法と平和を守る知事として、皆さんの先頭に立ちます」と訴えました。

集会の後、参加者は松本市内で開かれた、県内の青年有志でつくる「僕らが主権者って知らなくて委員会(ぼくしゅけ)主催のデモ行進に合流しました。

